

がんばれ！ぶさスー

(ぶさいくな白鳥の子)

うちは、コアラやパンダみたいで、
ぶさいくやけど、誰にもまけへんでえ、

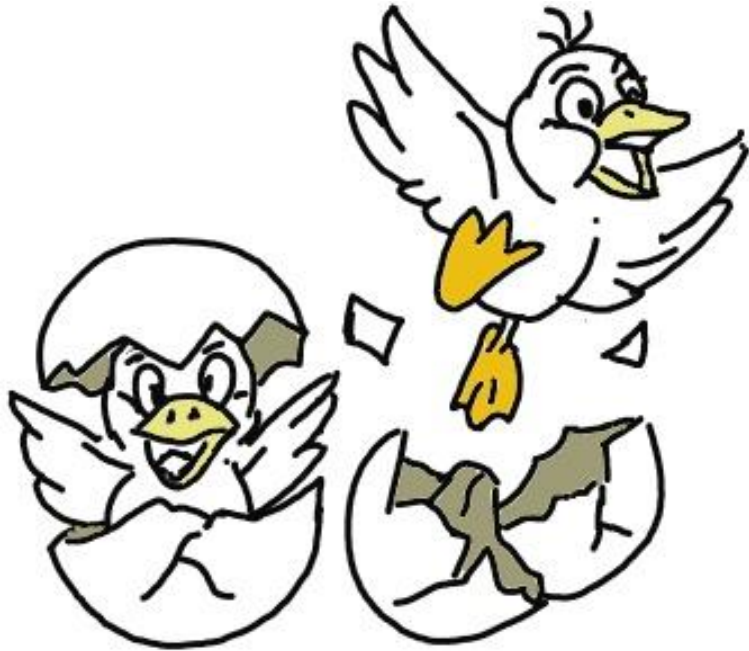


(季節は、「夏」)

むかし、むかし
大阪のある小さな池で、
アヒルのおかあさんが
たまごを温めていました。



ある朝、
「ぴよ、ぴよ」
「があ～、があ～」
たまごがわれて、
アヒルの子どもたちが
飛び出しました。
すこし遅れて、
みにくいアヒルの子も
飛び出しました。



そして、
1ぴきのアヒルが、いました。

「おまえ、コアラみたいで、
ぶさいくな 顔やなあ」

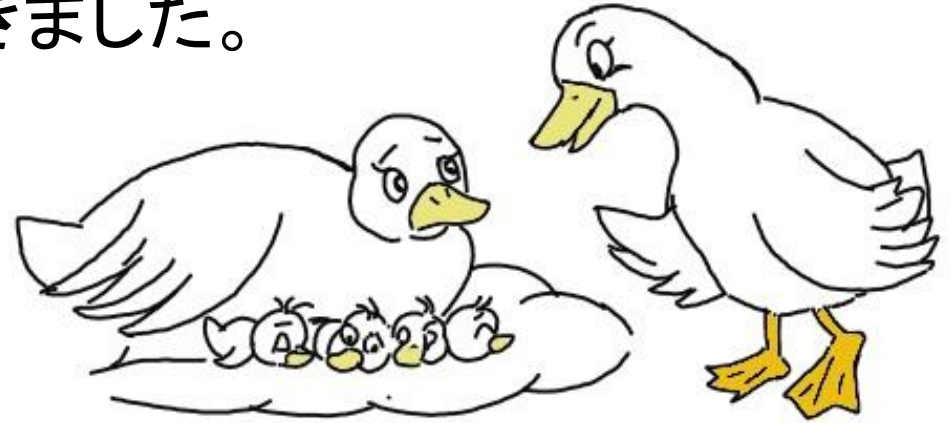
別のアヒルも、いました。
「それに、
きたない色してるで、」



つぎの日、
おばさんアヒルが訪ねてきました。

おばさんアヒルも
「ぶさいくな顔してるなあ
色もきたないし」

「この子は、アヒルの子とちがうで、」
「きっと、泳がれへんで、」



みにくいアヒルの子は、みんなからバカにされました。

ある日、おかあさんアヒルは、
子どもたちに、泳ぎ方を教えました。

おかあさんアヒルは、いいました。
「この子、めっちゃめっちゃ、
泳ぐの うまいやん。」

アヒルの子は、
「うちは、ぶさいくやけど、
泳ぐのは、だれにもまけへんで」
と思いました。

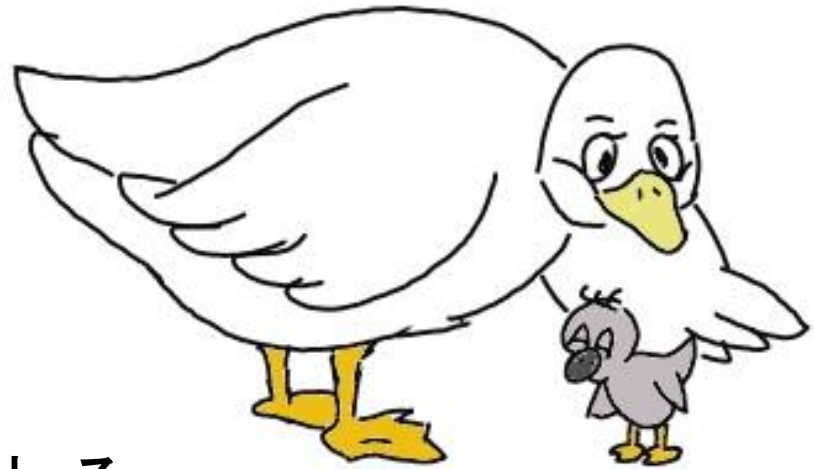


おかあさんアヒルは、
子どもたちに、歩く練習をしました。
そしてまた、
おかあさんアヒルは、いいました。
「この子、めっちゃめっちゃ、
走るの 早いやん。」

アヒルの子は、
「うちは、ぶさいくやけど、
走るのも、だれにもまけへんで」
と思いました。



アヒルの子は、泳ぐのも、走るのも
なんでも、上手にできました。
それでも、ほかのアヒルたちに
いじめられてしまいます。



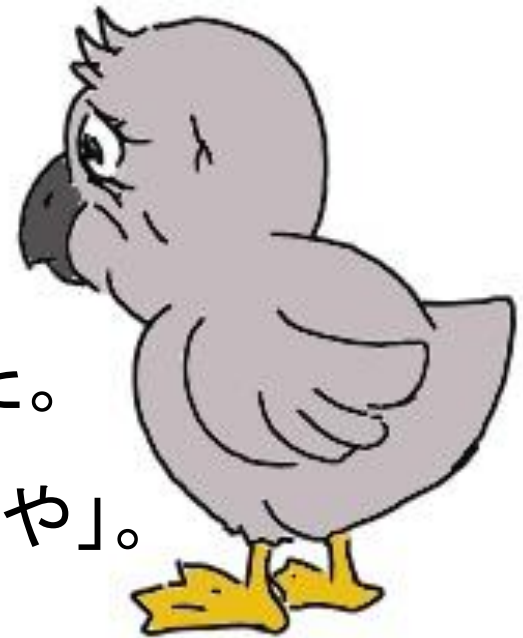
ある日、
やさしいおかあさんアヒルは、
「ここだと、みんなからいじめられる。」
「だから、ここにいない方がいいかもしれない。」
アヒルの子は、悲しそうにいいました。
「うん、そうする。おかあさん、さよならや」
「うちは、これからひとりで、旅にでるんや。」

(季節は、秋)

「うちは、ぶさいくやから、ひとりぼっちや。」
アヒルの子は、なん日もなん日も歩き続けました。

だんだんと、
ひとりぼっちのさみしさにもなれ、
食べられる草を見つけたり、
小さな虫を取ったりして、
ひとりぼっちでも、生きていけました。

「うちは、ひとりでも生きていけるんや」。
アヒルの子は、そう思いました。



そんなある日、
アヒルの子は、ひばりのお姉さんに会いました。

そして、ひばりお姉さんに
「うた」を覚えてもらいました。

アヒルの子は、
「うた」を歌うのが、好きでした。

ひばりお姉さんは、
「この子、めっちゃめっちゃ、
うたがうまいやん、歌手になれるで、」
と思いました。



アヒルの子は、
カモメのお兄さんにも会いました。

そして、
カモメお兄さんに
飛び方を教えてもらいました。

アヒルの子は、
すぐに飛べるようになりました。

カモメお兄さんも
それには、驚きました。



アヒルの子は、
ふくろうのおじいさんにも会いました。

そして、ふくろうおじいさんに
いろいろな勉強を
教えてもらいました。

アヒルの子は、
なんでもすぐに覚えました。

アヒルの子は、
すごく、賢くなりました。



(季節は、冬)

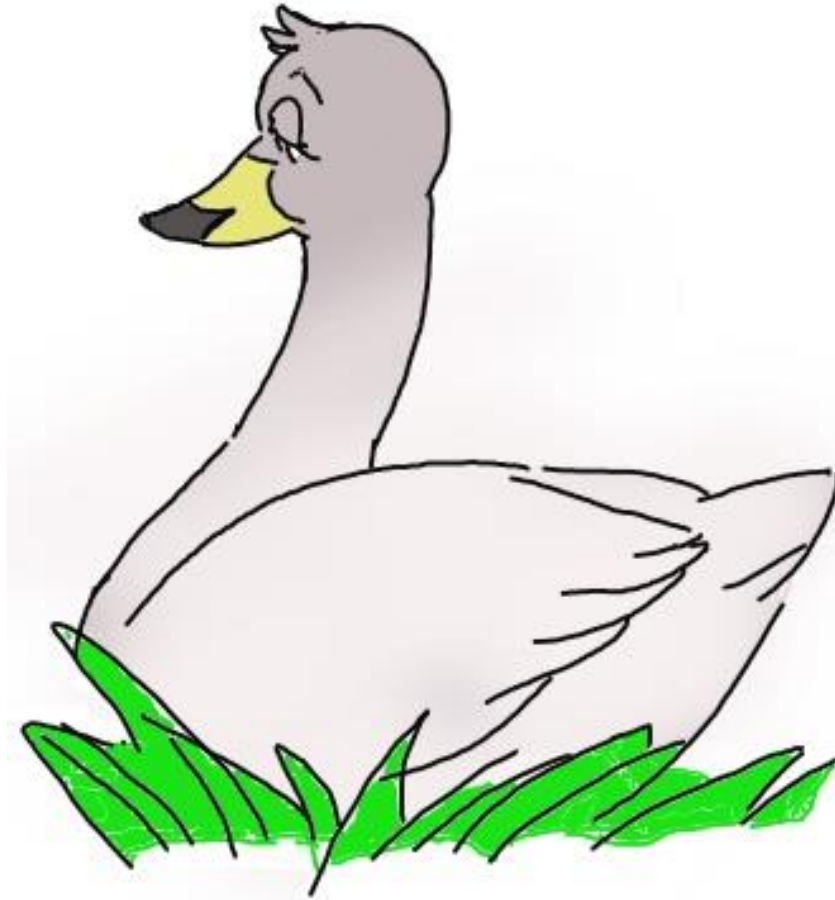
「うちは、ぶさいくやけど、強くなったんや。」
ひとりぼっちの長い冬も、
食べられる草がなくなっても、
食べる虫がいなくなっても
アヒルの子は、
ひとりでも元気に生きました。



「うちは、負けへんでえ、」

「そのうち、きっと、ええことあるんやあ〜」

長い冬の間、
アヒルの子の羽の毛が、抜け変わりました。



(そして季節は、春に)

アヒルの子は、池のおほりに舞い降りました。

そこにいる白鳥を見て、

「なんて、きれいなんや。」

「近くに、行きたいなあ〜」

そのとき、

おほりの白鳥が、

話しかけてきました。

「あなたは、

わたしたちの仲間ね。」

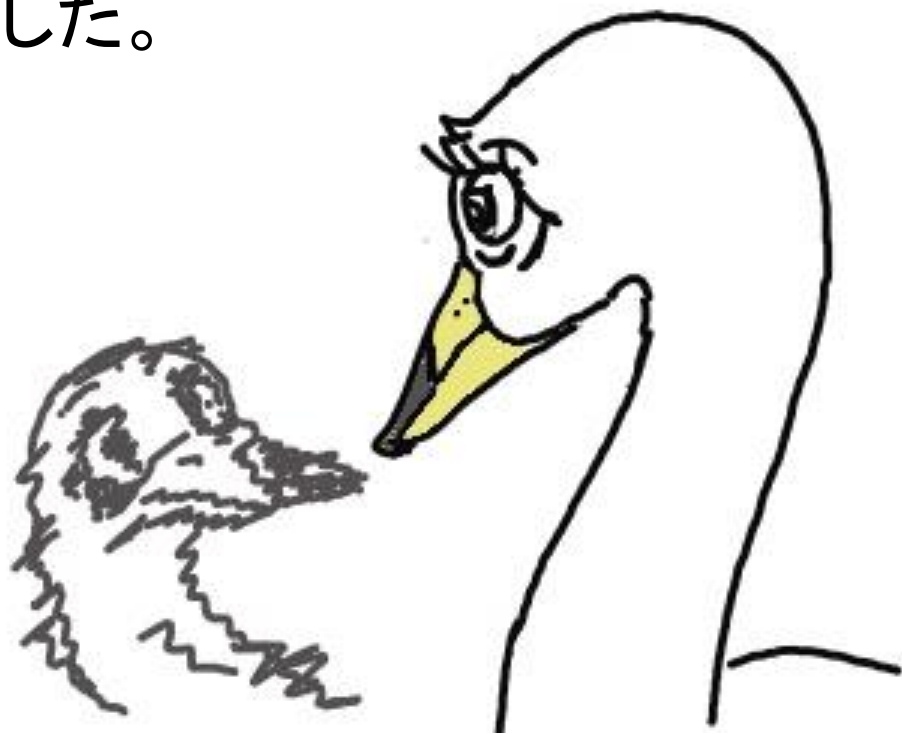
「どっから来たの？」



アヒルの子は、
「また、いじめられるんとかがうか」と思いながら、
水に映った自分の姿を見ました。

そして、アヒルの子は、
「うちは、アヒルやのうて、
白鳥やったんや。」
と、気づきました。

うちは、
「アヒルとかがって、スワンやったんや。」



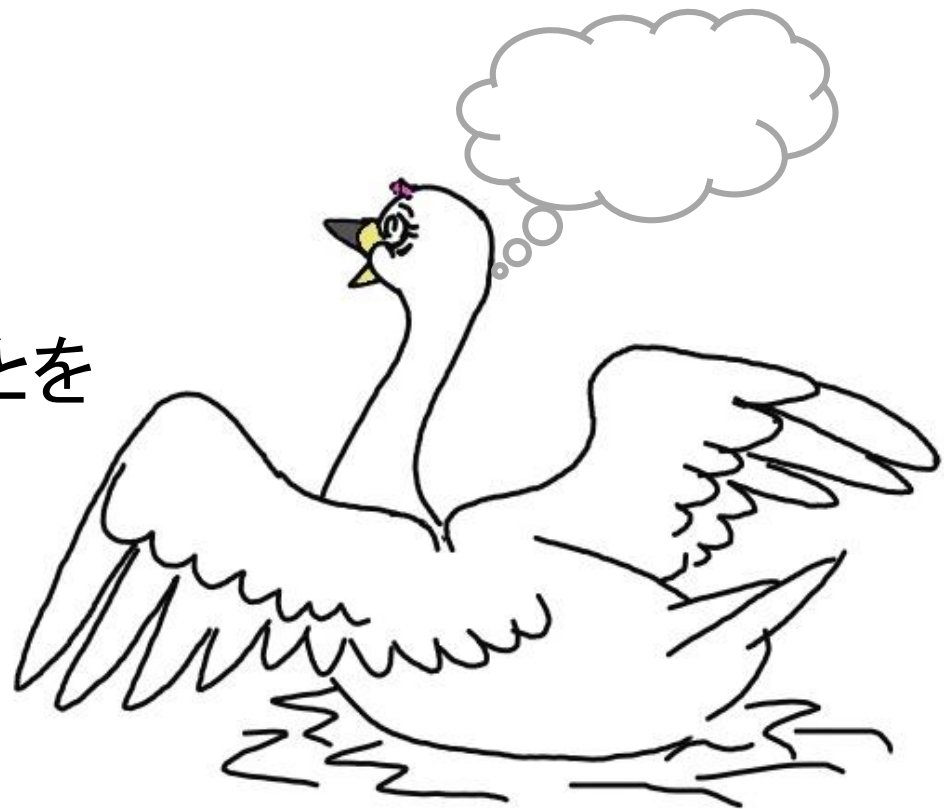
そこへ、別の白鳥がやってきました。
「おまえ、パンダみたいで、
おもしろい顔やなあ。」

アヒルの子は、
そうかなあ？ 昔は、
コアラみたいやって、
言われたけど、
苦労したから、目の下に
くまができてもうたんや。
だから、パンダみたいやねん。



アヒルの子は、
「うちは、みにくいアヒルの子」
とちがって、
「ぶさいくな白鳥の子」やったんや
と思いました。

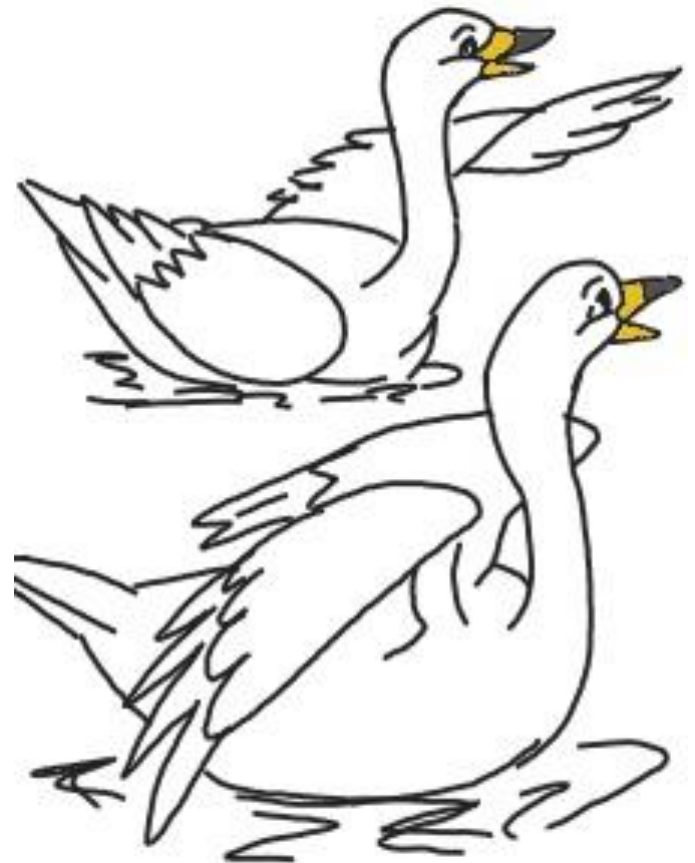
ぶさいくな白鳥は、
いままで、苦労してきたことを
他の白鳥たちに、
話しをしました。



ぶさいくな白鳥の話は、おもしろかったので、
すぐに、みんなと仲良くなりました。

白鳥たちは、
「この子、めちゃめちゃ、
おもしろいやん、
いっしょに いて楽しいわ」

白鳥たちは、
みんな、ぶさいくな白鳥が、
大好きになりました。



白鳥たちは、言いました。

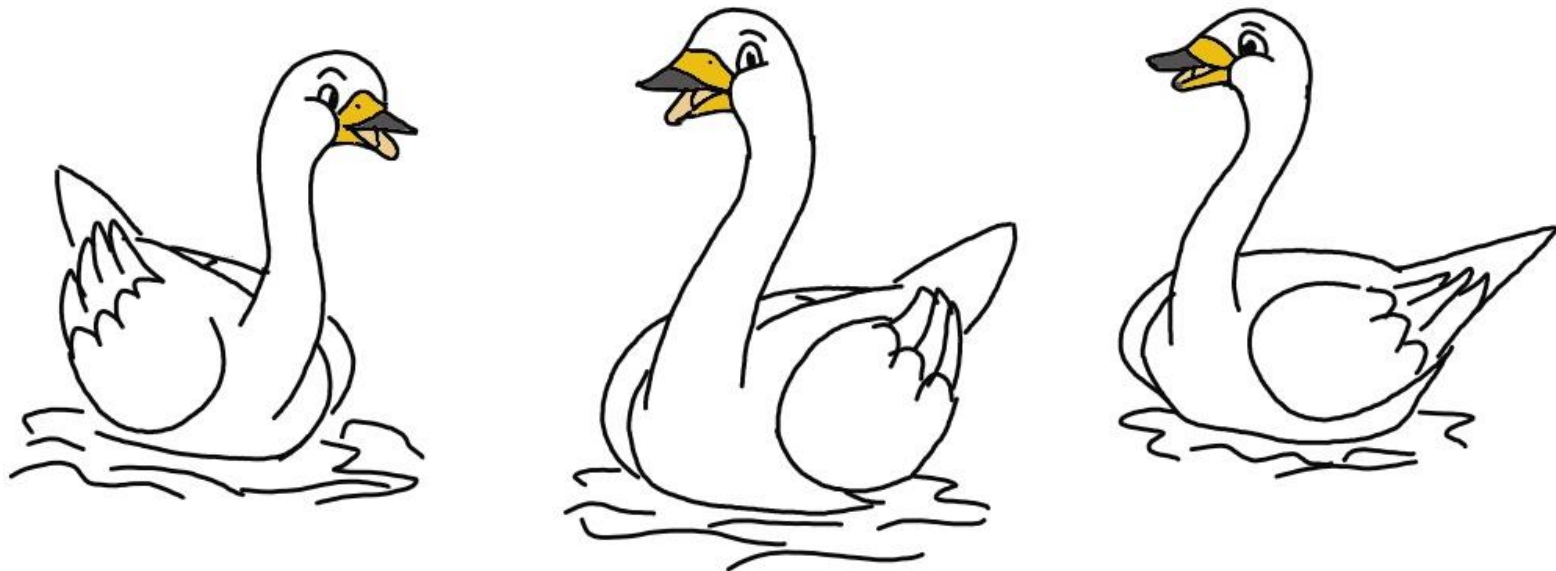
「おまえ、ええやつやなあ」

ぶさいくな白鳥は思いました。

「生きて行くのは、顔とちゃうねん。」

「生きて行くのは、

苦勞したほうが、楽しいねん！」



うちは、

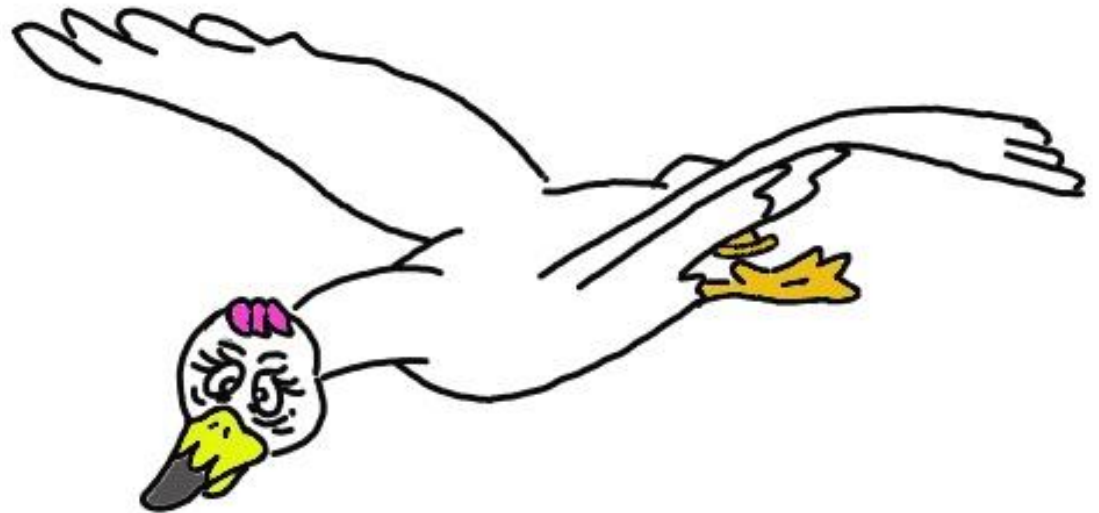
ぶさいくや、ぶさいくな白鳥や、

ぶさいくな「スワン」やから、

これからは、「ぶさスー」って呼んでや。

うちは、今から、旅に出るでえ～

また、楽しく生きて行くんやあ。



たびにでた「ぶさすー」は、
食堂のはとのおばさんに会いました。

そして、はとのおばさんに、
料理を覚えてもらいました。

「ぶさすー」のつくった料理は、
ものすごく、おいしいと
評判になりました。



しばらくして、「ぶさすー」は、
ペリカン君のお店で、働きました。
そして、
働くとお金がもらえることを
覚えました。

「ぶさすー」は、
すこし、お金持ちになりました。



うちは、もっとお金持ちになりたいんやと、「ぶさスー」は思いました。

そして次に、
2枚舌の九官鳥の
チョコボールおにいさんに
会いました。

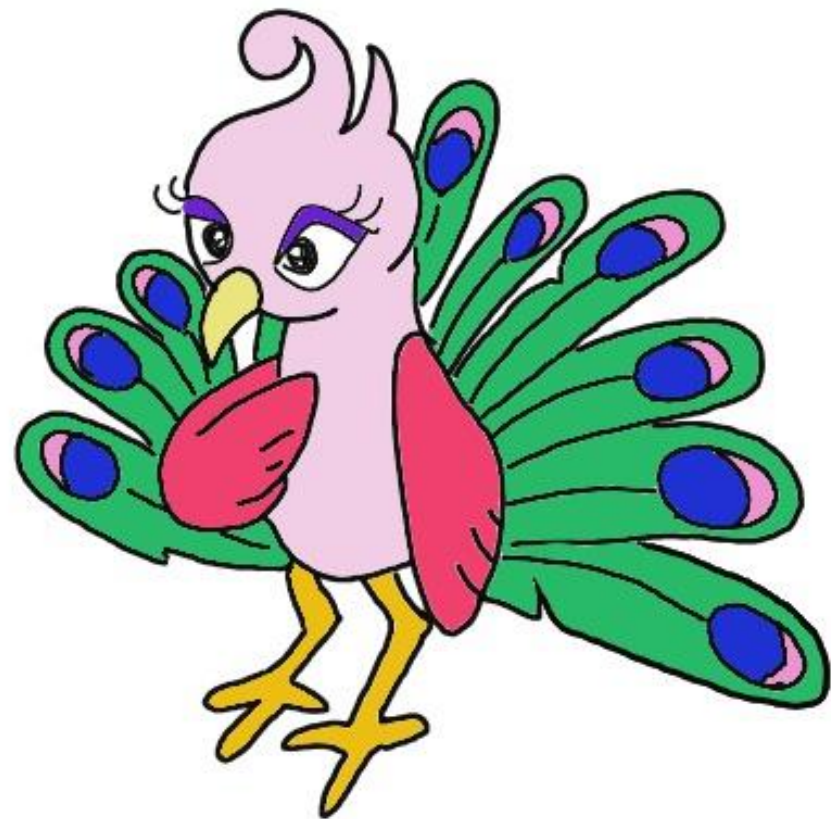
「ぶさスー」は、
チョコボールおにいさんと
いっしょに、仕事をして、
さらに、お金持ちになりました。



お金もちになった「ぶさスー」は、
ニューハーフの孔雀のお姉さん？
とお友だちになりました。

そして、
ファッションの勉強をして
おしゃれになりました。

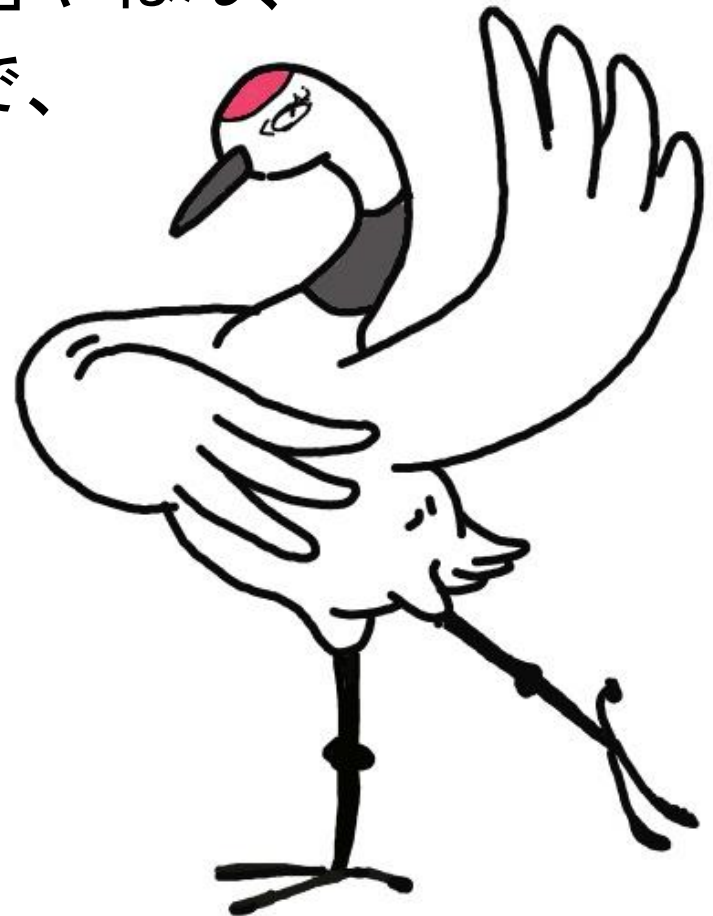
お金があったら、
ものすごく、楽しいねん。
「ぶさスー」は、そう思いました。



「ぶさすー」は、もっともっと、お金がほしくなりました。
そして、「さぎ」のお姉さんに会いました。

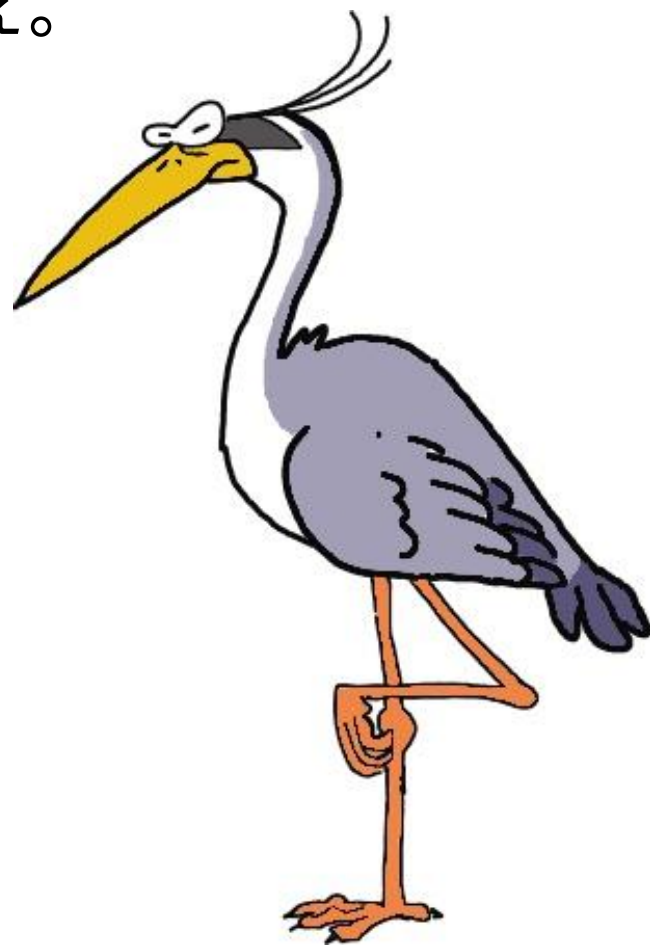
鶴とちがうねんで、うちは「さぎ」やねん、
だから、首を曲げて飛ぶねんで、
と教えてくれました。

「ぶさすー」は、
さぎのおねえさんに
悪いことを教えてもらい
さらに、お金持ちになりました。



そして、「ぶさすー」は、
「さぎ」のお兄さんにも会いました。
首をのばして飛ぶのが、鶴やでえ。

「ぶさすー」は、
さぎのお兄さんにも
悪いことを教えてもらい
さらに、お金持ちになりました。



「ぶさすー」は、お金があれば、なんでも買える。

お金持ちになった

「ぶさすー」は、オウム君たちと、
毎日、毎日、遊んで暮らしました。

ある日、「ぶさすー」は、
病気になってしまいました。

でも、

オウム君たちは、病気のなった
「ぶさすー」を無視しました。



病気になった「ぶさスー」は、
誰も看病してくれません。

そんな時に、ボランティアの
コウノリのおばさんに会いました。

おばさんは、いつも、
にこにこして、笑っています。

そして、
「ぶさスー」を一生懸命に
看病しました。



「ぶさすー」は、
コウノトリおばさんが大好きになりました。

お金でも買えないものがあるのだと思いました。
誰にでも、親切にしてあげるのが、
幸せなんだと思いました。

そんな時、
オウムくんも会いに来て、
「ぶさすー」に謝ってくれました。



それから、何日か過ぎ、
ある日、「ぶさすー」は、
ハゲタカのお坊さんに会いました。

そして、
何が幸せなのかを考えました。

「ぶさすー」は、
いままでためたお金を
みんなのために、使いました。



「ぶさスー」は、
その後も毎日、「笑顔」で、
みんなに親切にして、笑って過ごしました。

ぶさいくと思っていた
「ぶさスー」の顔は、

いつのまにか、
やさしい顔になっていました。



おしまい

